

時事新報

第千五百五十一號

明治二十年四月一日
舊丁亥三月八日

日入午後六時二十分
月出下午八時四十七分
月入午後零時十七分

左の一篇は商店主人が店の者を取扱ふの心得とも爲るべき條々と思ひ付きのまゝへ極通俗に綴りたるものにして固より大方に示す可きものに非ざれども聊か擧みて參観を煩はすと云爾

音即ち店の音と疊はざる可

なりしかば何人を訪問するも人皆あ之れを愛して快よく之れと語ることを好み扱てこそ好探訪者の名を得たるものありと云ふ顧みて商店の番頭の位地如何を考えるゝ矢張り人氣と寄するの箇處と備ふることを要するものゝ如し其故如何と云ふに凡そ人の商店に群集するは其店の品物の他よりも廉あると主として之れが原因たるべしと雖ども其店の者が世辭愛敬を旨として客の歎心を引き寄するふとも亦其一原因たるべけれとなり抑も商店の番頭は其店の性質次第、多少其撰と異にそども兎に角正直の者ならざる可らぞ人の性質の正邪ハ一見して判断得べき也非されば當人の平生を熟知するものに就て其行狀と質問し又其父母の履歴を調べ當人の年齢尚甚ゞ幼にして後來の方角如何をトする能はざるが如き場合にハ先づ其父母の人となりを目當てにして之れを取捨すること肝要あり性質の快活にして腹瀉する所なく一見甚ざ賑かふして毒氣あきは人の愛厭を引くの要素にして至極結構なりと雖ども之れに粗暴憎情放縱ひ性質を伴ふもハ決して店に者たるに適せず又利益にして掛引きに長じ客の氣合を見るの誠あるは宜立ちれども左ればとて實着の風に乏しく浮説奸猾の氣と帶びて所謂生馬まきの目を抜くが如きものも亦多々危險なり優美温順なるハ妙ありと雖モモ左りと右歸を不滿懲にして決闘に乏しきは不妙あり此等の撰の其商賣相にも關係することなれば各取捨する所あることあらんと雖ども既して店の者は篤輕として談話と書く事無く、顧客に對して常お欣然の色を帶々ると要す又販物の氣質にて人と接するに注意すべきも

を採用するなどあり從來我國の商店にてハ茶屋料理屋等を除くの外、店の者の大抵男子のみを雇ふて婦人を用ひるもの甚ざ稀あり或は婦人の店を張るものを見受けざるにはあらざれども是れは此家の娘や女房が片手間に手傳をあす位のことにして止まり特別ふ婦人を雇入れてあれど見世のものと成せしを聞かず今其故如何と云ふは從來日本の風習にてハ女子は十七八歳もなれば早く既に人に嫁して戸内のこととを始末せざる可らざるが故に商店お奉公して戸外の商賣に従事することを得ず或は之れに従事するふとを得るの時期あきにしもわざれども其時期より極めて短く從來商店の番頭が十二歳の小僧の時より奉公して半百の年迄も其家に勤続するが如きふと能はざるが故に商店にて婦人と雇ふもの少かりしならんと雖とも世の文明の進歩するに従て分業廣く行はれ打れ〳〵なる戸内の仕事も之れを一概にして戸外の仕事とあるもの多きものゝ如き例へば彼の養蠶生糸は如き往時は農家の戸内の仕事にして家々の婦人が鎗々にこれを取扱ひたるものあるをとも近年に至りては養蠶生糸の立派なる戸外の仕事となり大なる養蠶所製糸所を設立して専門の工女々之を従事することゝいなれり又彼の裁縫の如き料理調烹の如き往時は戸内の仕事にして家内の婦人がこれと始末するの習慣ありしが裁縫は仕立屋の業となり料理調烹は仕出屋の手に歸し西洋諸國にては衣服の裁縫は大抵之れを仕立屋に托し自家の庖廚に炊烟を揚々として仕出屋の飯を食ふるは甚ざ多き事あるば我國にても遅々世事の進歩するよ頃て性質分類の法を行はれ戸内の仕事は

左の一篇は商店主人が店の者を取扱ふ心得とも爲るべき條々を思ひ付いたるのまゝへ極通俗に綴りたるものにして固より大方に示す可きものに非されども聊か掲げて衆覽を煩はずと云爾

商家の心得

の如きのものゝ貴ふには非らず鼻高く色白く面白可端然として申分あきも滿面何にとなく愛敬なくして恰まる木偶人の如く應對振に興味あるくして俗に云ふ人付のせぬものは商賣人向きの容貌よ非らず商賣人の奇異なる醜男子にても差支なし或は一風鑿りさる状貌を具へて一たび之れと見たるものは永く之れと忘るゝことあきが如きも面白うらん美よも醜とも其中何んとあく愛敬ありて人付の善きよそ専一あれ近頃の事なり或人其友人を某幼稚學校の教師に薦めたるゝ校長某氏は學力品行等の事より別に一言を發せず唯「擔者は彼の容貌氣に入りませぬ」との申分みて之れを謝絶をさりと云ふ蓋し亦見る所なりしものと思はる深く世情を窺ひ見るものは容貌風采など云ふよとい實際の實際上に關係あきものなりと思ふ者もあらんうあれども其實は決して然らず今日の實際に於ても所謂自然淘汰の理よて商人社會官國社會商人社會等の區別を立てゝ擷て其中の人物を見れば概して其社會に固有する官員面職人面等一種の容貌風采を所持するものゝ如乞脚ち八字鬚を振り廻すものゝ世辭を丸める商店の番頭には不向ひにしてあやらをかき手拭と聲援にする連中は高帽を戴て四馬に鞭つに不似合なり左をば商人社會にて其店のものを撰ばんとするには容貌風采のよとを等閑小付せずして夫々其商賣向きに似合はしきものを取ることを忘る可らざるなり

子の遠く及ばざる所あり西洋學者の説く所を聞くに女子の學問上ふても頗る類似ある所あり例へば外國語言の如き男女同時同様に營業すれば平均して女子の卒業が男子よりも早しと云ふ又或る醫師の説に患者が來て其病の症体を陳するに男子は兎角粗漏にして發病の兆候又は其病患の經過を説ふるに往々不分明を免ざれども婦人は其病状を陳すること概して精密にして分明なりと云ふ又衣服髪飾などの事に就ては其感覺非常類似にして婦人が一見して他人の被服髪飾等の模様色合品柄を記憶し下着の編柄に至る迄も細かに之れを物語ることあるは人の能く知る所なり又西洋諸國の實驗に據るに婦人は電信電話機の技師に適せりと云ひ現に我國にても養蠶製絲紡績等の業は婦人の長技として之れと許さざるものなし婦人は斯く精巧緻密ある業務に頗敏ありとすれば日本は商店わ之れと使用して利益少なからざる可し例へば呉服、小間物、書籍、裁縫等の諸商店に何れも婦人着頭を使用するよ適する者にして深かよりの用向を聞き取り品物の性質を説き其流行の模様を語る等都て其應對振りの優長精密にして客は満足と得せしむるの一點に於ては必ず男子の企て及ばざる所あれば我輩の我國の商店が舊來の慣例を破りて莫大の婦人に適する限りは婦人を以て其方面に當らざることを渴望するものあり

○第十一 納者ノヘ
但公賣 使用ス
第十三 納期ナ
第十四 產物ナ
輕再犯
ノ納期附
第十六 產物ナ
ス若ク
年間ノ
現產出
ナ定メ
年以後
ニ據リ
ニ明文
クノ外
營業人
其適稅
既一賣
其稅金
五十六
從前北
ヨリ應
區副村
○文部省

を採用するなどあり從來我國の商店にてハ茶屋料理屋等を除くの外、店の者の大抵男子のみを雇ふて婦人を用ひるもの甚ざ稀あり或は婦人の店を張るものを見受けざるにはあらざれども是れは此家の娘や女房が片手間に手傳をあす位のことにして止まり特別ふ婦人を雇入れてあれど見世のものと成せしを聞かず今其故如何と云ふは從來日本の風習にてハ女子は十七八歳もなれば早く既に人に嫁して戸内のこととを始末せざる可らざるが故に商店お奉公して戸外の商賣に従事することを得ず或は之れに従事するふとを得るの時期あきにしもわざれども其時期より極めて短く從來商店の番頭が十二歳の小僧の時より奉公して半百の年迄も其家に勤続するが如きふと能はざるが故に商店にて婦人と雇ふもの少かりしならんと雖とも世の文明の進歩するに従て分業廣く行はれ打れ〳〵なる戸内の仕事も之れを一概にして戸外の仕事とあるもの多きものゝ如き例へば彼の養蠶生糸は如き往時は農家の戸内の仕事にして家々の婦人が鎗々にこれを取扱ひたるものあるをとも近年に至りては養蠶生糸の立派なる戸外の仕事となり大なる養蠶所製糸所を設立して専門の工女々之を従事することゝいなれり又彼の裁縫の如き料理調烹の如き往時は戸内の仕事にして家内の婦人がこれと始末するの習慣ありしが裁縫は仕立屋の業となり料理調烹は仕出屋の手に歸し西洋諸國にては衣服の裁縫は大抵之れを仕立屋に托し自家の庖廚に炊烟を揚々として仕出屋の飯を食ふるは甚ざ多き事あるば我國にても遅々世事の進歩するよ頃て性質分類の法を行はれ戸内の仕事は

明治廿年三月廿八日　内閣總理大臣伊藤博文
御名　大藏大臣伊藤博文正義
勅令第六號

北海道水產稅則

第一條 北海道水產物營業人ハ此稅則ニ從ヒ水產稅ヲ納ムヘシ〇第二條 北海道廳長官ハ水產稅ヲ徵收スルハ各組合水產物產出高價額百分ノ五テ以テ其組合一箇年ノ稅額ト爲シ之ヲ各營業人ニ賦課スルモノトス〇第四條 此稅則ニ於テ水產物トハ左ノ種類ナ云フ

第一類 生鱈、生鮭、生鰯、生鮪、生鰆、生鰐、生鮎、生鮑、
第二類 烏賊、乾身鮫鱈、乾胴鱈、乾有刺鱈、乾外鰓
鱈、乾二ツ割鱈、鱈鱈柏、拂肚、拂鱈、拂鮭、拂鮎、
乾鮭、乾鮑、乾鮎、拂鮎、乾鮑、乾河豚、煎海鼠、鮑、
海馬、乾海馬、乾鮎、乾鮑、昆布、糸布、細布、布漬苔、若布、銀
杏草

第五條 此稅則ニ於テ水產物營業人トハ第四條第一類ノ水產物ヲ採取スル者又ハ原品ニ努力ヲ加ヘテ第四條第二類ノ水產物ト爲ス者ヲ云フ〇第六條 水產稅ハ明治十五年ヨリ同十七年マテ三箇年間ノ水產物產出高ヲ平均シ其三箇年間北海道ニ於テ該稅品掲下ヲ爲シタル代價ヲ平均・ヲ價格ヲ定メ其組合ノ稅額ヲ算出スルモノトス但明治二十年以後三箇年以上ヲ算過シ大藏大臣ニ於テ北海道ノ全部又ハ其幾分ニ就キ水產物既定ノ價額不相當ナリト認ムルトキハ更ニ該稅三箇年間ノ產出高并其實買相場ヲ平均シテ之ヲ改正スヘシ〇第七條 第四條第一類ノ水產物ヲ以テ第二類ノ水產物ト爲ス

校同様ノ學
チ要スル儀
トキハ其狀
明治二
一入學ノ生
ノ外高等小
建實ナル事
入金ヲ除キ
利子ト認メ
○古着強襲
の際に於ては古
省申額三十一
若及附屬の人口
新之が輸出入を
する湘府即ち多
く活路を失ひ計
より客年府下天
の品に限り當該
月二十七日を以
て爲セし當該年
を廃設する事等
く削除の効果甚
特來の豫防上に
を加へ既製品に
きは済んで居る
し現今に於ては
右消滅所に於ては
省へ搬出でたる
の業者店くる事
○東京府下
及日本形五十石
支那船船頭八十
石以上九十八
七十五石以上
計二千四十九

子の遠く及ばざる所あり西洋學者の説く所を聞くに女子の學問上ふても頗る類似ある所あり例へば外國語言の如き男女同時同様に營業すれば平均して女子の卒業が男子よりも早しと云ふ又或る醫師の説に患者が來て其病の症体を陳するに男子は兎角粗漏にして發病の兆候又は其病患の經過を説ふるに往々不分明を免ざれども婦人は其病状を陳すること概して精密にして分明なりと云ふ又衣服髪飾などの事に就ては其感覺非常類似にして婦人が一見して他人の被服髪飾等の模様色合品柄を記憶し下着の編柄に至る迄も細かに之れを物語ることあるは人の能く知る所なり又西洋諸國の實驗に據るに婦人は電信電話機の技師に適せりと云ひ現に我國にても養蠶製絲紡績等の業は婦人の長技として之れと許さざるものなし婦人は斯く精巧緻密ある業務に頗敏ありとすれば日本は商店わ之れと使用して利益少なからざる可し例へば呉服、小間物、書籍、裁縫等の諸商店に何れも婦人着頭を使用するよ適する者にして深かよりの用向きを聞き取り品物の性質を説き其流行の模様を語る等都て其應對振りの優長精密にして客は満足と得せしむるの一點に於ては必ず男子の企て及ばざる所あれば我輩の我國の商店が舊來の慣例を破りて莫大の婦人に適する限りは婦人を以て其方面に當らざることを渴望するものあり

○第十二條 納ムヘシ利息
納者ノ營業
使用スル器
但公賣ニ關
第十三條
ナ為シタル
產物ヲ沒收
第十四條
輕再犯加重
ノ納期及此
附則